

基盤教育における教育支援システムの利用

栗山恭直

山形大学教育開発支援センター

山形大学理学部

kuriyama@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

概要：山形大学では、基盤教育（教養教育）にwebClassを用いた教育支援システムを導入した。教員の使用例と利用した教員・学生の評価を紹介し、今後の利用方法について検討する。

山形大学では、高等教育企画センターを早くから立ち上げ、学内にe-learningシステムを導入し、その普及に努めてきた。分散キャンパスあるいは大学コンソーシアムやまがたの連携機関への講義の配信等を行なってきた。昨年からは教養教育を基盤教育¹⁾と改め、さらに平成20年度採択された質の高い大学教育GP「学生主体型授業開発共有化FDプロジェクト²⁾」の終了に伴い、e-learningは学部事務が担当することになり、高等教育企画センターを教育開発支援センター³⁾に移行し、FD支援部門と地域教育連携支援部門とした。e-learningは、Blackboard(Bb)からwebClass(wC)の変更になった。今回、e-learningの使用状況とその問題点を報告する。さらに教育GPでICTの機器を導入した先端学習ラボが(エルキューブ)⁴⁾の紹介を行う。

e-learning について

昨年度と今年の使用状況について調べてみた。
平成22年度

学期	分野	科目数	受講生/人
前期	基盤	48	3272
	専門	15	986
後期	基盤	37	2075
	専門	25	738
合計		125	7071

分野：基盤教育と専門教育

平成23年度

学期	分野	科目数	受講生/人
前期	基盤	66	3762
	専門	37	
後期	基盤	49	2012
	専門	28	
合計		180	5774

後期については履修登録中

担当教員は、昨年度37名、今年度55名と増加し、科目数も125から180と増えている。執筆時において履修登録中のため学生の数については確定していないが、前期に履修した学生は増えている。前期の基盤教育を1717人の学生が前期22503科目登録している。約6人に一人はLMSを利用した講義を履修したことになる。

Bbでは、アドビコネクトを利用してwebカメラで講義を録画してストリーミング配信を行っていたが、どうしてもカメラの撮影方向が固定されていて教員が動くと画面から消えるのでPC画面の録画になっていた。現在はビデオ撮影を行い、動画として配信している。ほとんどの教員はLMSとして使用し、教材の配布、レポートの提出、小テストなどのクイズを行なっている。

wCの会議室を使用して、グループワークを学生に行かせた。班ごとの会議室を作成し、一つのテーマに沿ってグループワークを行う中で資料やファイルを共有することができ、有効に利用できたようである。また、メールを配信する機能もあり、資料をアップしたことを携帯メールで班員に知らせるなど機能的に考えられている。

先端学習ラボ（エルキューブ）について

先端学習ラボ（エルキューブ）は、平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に採択された「学生主体型授業開発共有化FDプロジェクト」を推進するために整備した教室である。先端学習ラボには、学生との双方向のコミュニケーションを高める最先端の教育機器や可動式の机・椅子を配備することにより、グループワークをはじめとした多様な授業形態に柔軟に対応できる学習環境が整えられている。

教室には、windowsPCが30台、Macが10台準備されている。無線LANがあるので講義中でのweb検索ができる。ただし、PCにデータを保存することができないので各自USBなどの記録媒体が必要である。机と椅子が移動なのでグループワークなどの活動を行いやすい配置を簡単に取ることができる。電子黒板や書画カメラを配置してある。50人分のクリッカーがあり、パワーポイントで問題（クイズ）を作ったり、アンケートを取ることが簡単にできる。

学生のアンケート結果

発表当日にポスターで紹介します。

今後の課題

資料の配布・レポートの提出等問題ないと思われる。レポートの内容についてはここでは問題にしない。学生のなりすまし等が起きないように個人情報管理には気をつけるのは当然である。代理受験までの確認する手段は今のところ難しいので学生を信じるしかないと思う。

グループ学習での学生の関わり方についてはオンラインでの作業に限らないが評価することが難しい点もある。オンラインでの作業の場合接続ログより回数や時間を集計することが可能だが、それが作業の内容をどれくらい反映しているかは判断することができないので、実際の発表や講義中でのグループワークから判断するしかないだろう。

三重大大学の森尾先生のe-learningを活用された講義を見せていただいたが、非常に感銘深いものだった。山形大学FDシンポジウム 学生主体型授業の探究～学生の意欲と主体性を育てる授業を考える～で講演いただいたが、教員が森尾先生のようにLMSとして活用することができるのならその教育効果は非常に高いものになると確信して

いる。そのないようは、参考文献をお読み頂きたい。90分の演習講義の中でプレゼンあり、演習あり、クイズあり、LMSをフルに使われての講義で準備にも時間がかかり先生の学生への愛情なしでは難しい講義である。講演のタイトルも「15回愛情いっぱい刺激を与え続けるための授業作り 森尾DNAとは」だったが。このシンポジウムの報告書⁵⁾も参考になる。

参考文献およびサイト

1) 基盤教育院

<http://campus3.kj.yamagata-u.ac.jp/kyoikui/index.html>

2) 学生主体型授業開発共有化FDプロジェクト

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kyouiku/>

3) 教育開発支援連携センター

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/rche-yu/index.html>

4) 先端学習ラボ

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kyouiku/labo/index.html>

5) 「教養教育授業改善の研究と実践」、山形大学教養教育改善充実特別事業報告書、45-58、2009

6) 2)の成果および5)のシンポジウムに関連した本 小田隆治、杉原真晃「学生主体型授業の冒険」、ナカニシヤ出版、2010